

健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 自己評価シート

プラン名	飛騨高山間伐材テク作戦～宝の森プロジェクト～			作成日	23 年	11 月	11 日
実施方法	☐ 単独	☒ JV	所属	飛騨高山森林組合	記入者	細洞 光弘	
プロジェクトの対象・目的・内容	対象（誰を、何を）		目的（どういう状態にしたいのか）				
	- 境界が不明確な森林 - 急峻な地形の多い森林 - 作業路が不足している森林 - 伐り足らない従来の間伐 - 課題の残る木材生産体制		- 境界と所有者を森林組合が把握することで、森林にとって必要な作業路や施業を所有者にいつでも提案できる状態 - 急峻な森林での作業路作設から木材生産までの技術の蓄積 8～10m3/日・人の木材生産性 - 所有者を含め森林に関わる人すべてが理想とする森林の姿を共有している状態				
	事業内容（どのような方法で、何を行うのか）						
- 地区座談会で境界の明確化の重要性を説明し、所有者の協力を得て、杭打ちなどの境界明確化事業を実施 - 地区座談会で目指す森林・林業のあり方を説明し、個別訪問で施業プランを提示し、認識を共有した上での契約 - 相対幹距比20%と将来木施業を意識した間伐の実施・・・作業員への啓発 - 視察を受けることで普及啓蒙活動につなげると同時に批評もうけて自己研鑽につなげる - 内部研修も含めた研修参加により機械オペレーターと施業プランナーの技術向上と養成を行う							
事業期間	平成 22 年度 ～ 平成 26 年度（ 5 年間）						
事業費 / 年度	モデル団地への国・県・市町村補助金投入額（平成22年度決算） ※職員人件費を除く						
	森林整備関係	搬出補助関係	機械導入関係	治山関係	保安林整備関係	その他	
予算執行額（千円）	7,747.0	1,610.0	36,719.0				
財源内訳	国・県費	7,747.0	500.0	36,719.0			
	市町村費		1,110.0				
	一般財源						
	その他						
事業実績	成 果 指 標		単位	22 年度		23 年度	
				計画	実績	計画	進捗
	① 施業集約化	ha	67.0	45.0	85.0	55.0	
	② 植栽	ha					
	③ 下刈・除伐	ha	6.0	3.0	2.0	0.3	
	④ 切捨間伐	ha	5.0	0.2	5.0	0.0	
	⑤ 利用間伐	ha	15.0	8.0	40.0	13.0	
	⑥ 主伐	ha					
	⑦ 作業道開設（延長） w= 3.0 / 3.6 m	m	1,600 / 2,000	392 / 0	2,450 / 3,750	984 / 1,832	
	⑧ 作業道開設（開設コスト） w= 3.0 / 3.6 m	円/m	3,000 / 3,500	1,916 /	2,500 / 3,000	1,993 / 4,483	
	⑨ 木材生産量（モデル団地内）	m³	1,500.0	748.0	4,000.0	940.0	
	⑩ 木材生産量（モデル団地外）	m³	1,500.0		3,100.0	3,200.0	
	⑪ 木材生産性	m³/人日	4.7	3.6	4.7	4.1	
	⑫ 木材生産コスト（伐採～積込まで）	円/m³	9,000.0	9,000.0	8,500.0	7,058.0	
	⑬ 高性能林業機械導入	台	5.0	5.0	0.0	0.0	
	⑭ 伐採専門チーム養成	チーム	1.0	1.0	0.0	0.0	
	⑮ 施業プランナーの育成	人	1.0	1.0	1.0	1.0	
	⑯ 地域イベントでの普及啓発	回	1.0	1.0	1.0	0.0	
	⑰ 組合員及び関係事業体等との連携強化	回	2.0	3.0	2.0	1.0	
	⑱ 水の濁度調査	回	1.0	0.0	1.0	1.0	
	⑲ 林業機械メーカーへの働きかけ	回	回数としての計画は無し	機械業者が営業で訪れた際の懇談の中で数回	1.0	1.0	
	⑳ 熊剥ぎ被害林対策	ha	5.0	0.0	0.0	0.0	
	(21) 低コスト作業システムに関する現地研修会	回	1.0	0.0	1.0	1.0	
	(22) モデル林の設置	ha	面積としての計画は無し	0.0	0.45	0.45	
	(23) 組合便りで森プロのPR	回	1.0	0.0	1.0	0.0	
	(24) 事業実施の効果影響に関する現地研修会	回	1.0	0.0	1.0	0.0	
	(25) 森プロ1・2・3期生との情報交換	回	1.0	0.0	1.0	0.0	
	(26) 全職員対象の現地研修会	回	1.0	0.0	1.0	0.0	
(27) 宿儺の森プロ担当者による現地検討会	回	1.0	0.0	1.0	0.0		
(28) 国・県主催の各種研修会への参加	人	3.0	2.0	可能な限り	10人以上		
補足説明	- 濁度調査については、6箇所を3日間連続で採取したものを1回として7月に実施。結果の詳細分析についてはこれからとなる。 - 林業機械メーカーへの働きかけについては、IHIのF801フォワードの試乗会に作業員1名と職員1名参加。 (21)については、飛騨地区の林業経営者協会の視察受け入れとして実施。 (28)については、ドイツ・フォレスター研修、プランナー研修、林業就業者リーダー研修、作業道研修など。						

1	達成度	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		プロジェクトは当初計画どおり実施されているか	☐ 実施されている	☒ 一部未実施	☐ 実施されなかった
		当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか	☐ 達成した	☒ 一部達成した	☐ 達成しなかった
		進捗管理（定点観測等）は実施されているか	☒ 実施されている	☐ 一部未実施	☐ 実施されなかった
補足説明	- 作業道開設が当初計画より遅れている。それに伴い、間伐計画も遅れ気味である。 - コストは当初は非常に低く、数字にも表れているが、改善の兆しがある。（一日の材木を降ろす回数等、中間土場担当者の話） - 濁度調査の定点観測は、採取方法、採取箇所が確立できたので、来年度以降も有意義に実施できそうである。 - 麓に近い位置に展示林を設定できたので、看板の設置等、充実を図りたい。				
	【 委 員 評 価 】				
コメント	別添フォローアップシート参照				
2	成果	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		木材生産の拡大が図られているか	☐ 図られている	☒ 一部図られている	☐ 図られていない
		森林環境（動植物等）の改善を確認できるか	☐ 大いに確認できる	☒ 一部確認できる	☐ 確認できない
		山地災害発生を抑止する工夫ができたか	☐ 工夫できた	☒ 一部工夫できた	☐ 工夫できなかった
補足説明	- 上宝地区での搬出間伐の取り組みは非常に遅れていたもので、今までと比べれば木材生産の拡大が図られたといえる。 - 間伐が始まったのが昨年秋からであり、光環境等の改善は目に見えるが、植生等の変化はまだ確認されない。 - 施工の際の工夫は出来たが、工法面での工夫は出来ていない。 - 当森プロの目指す間伐に対する考え方は、個別訪問や座談会で森プロ実施前より確実に浸透しつつある。				
	【 委 員 評 価 】				
コメント	別添フォローアップシート参照				
3	効率性	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		コストや業務量に見合った成果が得られたか	☐ 得られた	☒ 一部得られた	☐ 得られていない
		効率的な実施体制で推進されているか	☐ 推進された	☒ 概ね推進できた	☐ 推進できていない
		積極的に民間活力を活用しているか	☒ 活用できた	☐ 一部活用できた	☐ 活用できなかった
補足説明	- 林業機械の能力を生かし切るシステムが構築されてるとは言い難い。 - 地区担当職員と、林産担当職員が協力して進めていく形が取れている。 - 自組の労務だけでは不足しているので、愛宝産業はじめ、地元建設業者に大いに参画してもらっている。				
	【 委 員 評 価 】				
コメント	別添フォローアップシート参照				
4	妥当性	【 自 己 評 価 】			
		配点	3 点	2 点	1 点
		地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか	☐ 反映している	☒ 一部反映している	☐ 反映していない
		プロジェクトの計画内容（箇所・時期等）は適当であったか	☐ 適当であった	☒ 一部適当でなかった	☐ 適当でなかった
		期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等）	☐ 養成された	☒ 一部養成された	☐ 養成されていない
補足説明	- 作業路開設の遅れに関して、地域のニーズに追いつけていない面もある。 - 過去の切り捨て間伐地が効率的な作業道開設の妨げになっている。 - 新規林産班はまだまだ発展途上である。				
	【 委 員 評 価 】				
コメント	別添フォローアップシート参照				

【 自 己 評 価 】				
配点		3 点	2 点	1 点
5 発展性	関係者（住民・所有者・従事者）の満足度は向上したか	☐ 向上した	☒ 一部向上した	☐ 向上しなかった
	選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか	☐ 対応できた	☒ 一部対応できた	☐ 対応できなかった
	上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか	☒ 余地がある	☐ 一部余地がある	☐ 余地がない
	補足説明	・これまで地域の要望は強かったが、なかなか作業道の開設が出来なかったところへ作業道を開設したことは、地元から非常に喜ばれており、そのほかの要望の高まりにつながっている。ただ事業実行に遅れがある。 ・作業道開設で生じた問題や、指摘事項に対しての検証は行えた。あとはその検証内容を着実に実行しなければならない。現在取り組んでいる最中であり、実行が完了したとはいえないので一部対応とした。 ・森プロでの取り組みから組合の改革につながり、それによりさらなる成果向上へつながると考える。		
【 委 員 評 価 】				
	コメント	・別添フォローアップシート参照		

自 己 評 価（集計）				
評価集計	1 達成度	2 成果	3 効率性	
	7	6	7	
	4 妥当性	5 発展性	合計点	
	6	7	33	
	総合評価	B		
総合評価：A＝現状維持 B＝充実・拡大 C＝要改善 （配点区分：A＝4 5～3 6点 B＝3 5～2 6点 C＝2 5～1 5点）				
補足コメント	・宿讎の森プロでもいえることであるが、森プロの取り組みを、組合内でもしくは飛驒地区内でもっと批評しあう機会が必要と考える。外部の識者に批評を受けることは当然であるが、それでは関係者だけの研鑽にとどまる可能性もあるので、地区内で研鑽することにより、地域全体の発展に寄与するものとする。			

フォローアップ委員会による総評			
推奨方針（案）	☐ 現状維持	☒ 充実・拡大	☐ 要改善
コメント	・別添フォローアップシート参照		